

今年は例年よりも降雪が少なく、雪かきの回数が少なくて済むかもしれないと思いつつ、雪の少ないほっかいどうに物足りなさを感じています。また、これから雪まつりなど冬の行事も始まりますので、体調管理に気をつけていきましょう。

今回はくスマートホン・タブレットを上手く活用して「学べる環境」を整えようというテーマで書かれた本の中から一部、紹介をいたします。(中邑賢龍、近藤武夫監修、スマホ・タブレット活用編 参考)

読み書きが苦手なお子さまは、本を読むこと、文字を書くことに抵抗感があるため、

紙媒体での学びに意欲を失ってしまう場合があります。

学ぶことの大切さを知っていても、

どのように取り組んだら良いのかと悩んでいるかもしれません。

読み書きはあくまで、学ぶためのひとつの手段であり、それが全てではないため、

日常の移動や買い物、掃除などの活動を通して学ぶ楽しさに気づき、知識を身につけていけるよう子どもたちをサポートできる方法のひとつとして紹介したいと思います。

## <どのように役立つ?>

読み書きが苦手な場合、「紙の教材」しか使えないという環境が多い。そのため、読み書きが苦手なお子さまによっては失敗しやすい環境になってしまっています。自尊感情を失ってしまうほど、苦手なことを、無理に頑張る必要はありません。問題が環境側にある場合もあるため、問題を解消できるような代替手段を探して別の方法を取り入れましょう。そこでテクノロジーを活用することで環境を変えることができるのです。紙媒体の教材からテクノロジーを活用した「使いやすい教材」へ変えることで、その子に合わせた方法で学びの環境を整えることができます。

また、テクノロジーの活用によって、子どもが学習にアクセスしやすくなります。テクノロジーを使うのは、読み書きなどの「機能」を「代替」し、学習の本質にアクセスするためです。本質はどこかを考え、それ以外の部分で苦手さに繋がっている部分がある場合に、テクノロジーによる代替を考えてみましょう。

例えば・・・

作文の本質は、考えなどを文章で表現することです。手書きでもキーボードで入力したとしても本質は変わりません。しかし、習字の場合、本質は字を書くこと。キーボードでの入力は本質が変わってしまうことも

## <ツールだけが役に立つのか・・・>

ツールは環境面の問題を解消するために役立ちますが、ツールだけでは問題の解消にはなりません。

ツールを役立てるには、子どもが自分に合った活用法を身につけられるように、大人のサポートが必要です。

子どもが何をしたいと思っているのか、そのニーズに合わせてツールの使用環境を整えたり、自分で成功と失敗を体験することで、学び、覚え、身につけていきます。あれこれ教えすぎず、見守ることも必要です。

また、体験の中で自分に必要なツールや活用法を身につけ、人に説明することができるようになる。

そのためにも大人はツールの環境を整えて、子どもの活動や学習を見守ることが必要です。

何かご不明な点や心配なことがございましたら、ご相談ください。

放課後等デイサービスかなで

TEL: 011-596-9915 HP: <https://www.jyfid.co.jp>

